クラス	Q304	担当教員	江口　昇勇
テーマ	夢、箱庭、コラージュによる自己探求と児童施設でのかかわり体験の事例検討		
著書･論文 研究課題等	［著書］学校現場に役立つ臨床心理学 共著 日本評論社 2001、臨床の知－実践してきたこの私 共著 ﾅｶﾆｼﾔ出版 2003、クラスに悩む子どもたち　共著- 2004、臨床心理学にとっての精神科臨床-臨床の現場に学ぶ-共著-　2007、日本の心理臨床の歩みと未来－現場からの提言－共著　2007、以上３冊は人文書院 ［論文］障害者教育のおける自立と統合教育、障害者教育における影元型と障害者元型の内的意味、現代における親子関係の七パターンと子育ての過程で親として成熟すること、障害児を持つ親への子育て支援と対応困難な保護者との関係作り、以上　愛知学院心理臨床教育相談室紀要　2007 増刊号に所収		

ゼ ミ ナ ー ル 概 要

キーワード：自己探求、夢分析、臨床事例研究

［目的、内容、方法］；ゼミは＜体験重視＞の基本姿勢で一貫している。3 年生では＜自分探し＝自己探求＞を目的にまずは様々なシミュレーションでの自己紹介をする。次に感受性訓練を半期間丁寧に行う。後期は自分史作成と同時並行に、家族力動解明のために円枠家族描画法(F-C-C-D)を実践する。そこで個人のコンプレックスが明確になれば球体アクティブ・イマジネーション体験を媒介にシンボル体験を深化させていく。その頃には、夢の採取もできるようになるので、夢分析やドリーム・ワークの手法も採用するようになると考えている。

授業計画等：

［前期］

１.自己紹介；年間授業計画、２～５.感受性訓練、三分割呼吸法、イメージ体験、二人ペァでの取り組み、集団、６自分との出会い；描画を通して、バウムテスト、表の自分 vs 裏の自分（描画は予め実施してきて、ゼミでは自己分析と相互解釈に当てる）、７～８.描画を介在させた関係性の学び；相互色彩分割、交互スクイグル、風景構成法、九分割物語法、９～10.自分との出会い；ロールプレイ「二股の場面」、自分との出会い；ロールプレイ「自殺する人、止める人」「よい子、悪い子、親」、11.コラージュ療法体験、12～13.さまざまな場面を想定しての自己紹介、14.球体アクティブ・イマジネーション体験、15.「自分史」作成のガイダンス(夏休みの宿題)

［後期］

１～３.自分史の発表＆円枠家族描画法とのつきあわせ、４.ボランティアによる臨床実践のスーパービジョン（逆転移の分析）、５.ドリーム・ワーク（夢分析による深層心理の理解）、以降はこれを交互に行う。後半は卒業論文作成に向けて、論文指導が中心になっている。指導が厳しいので自ずとゼミ生同士の関係、結びつきが強くなり、協力し合って論文作成にエネルギーを注ぐようになることを期待している。

担当教員からのメッセージ

最近は対象研究にもエネルギーを注ぐことにしている。それは臨床心理学的な研究方法の習得が重視されるべきと判断したからである。特に大学院進学を考えている学生は当初から、方法論の整った卒業論文執筆が重要であることを認識するよう指導している。具体的には各自がボランティアを体験している施設で自分が研究対象とする相手を定めて、毎回の出会いの記録を残して「事例研究」を行う。ゼミではそうした記録を元にグループスーパービジョンを行って、転移・逆転移を分析して、臨床の中枢を味わうのである。またそれ以外にも自分が関心を持つ事項、思春期やせ症、対人恐怖、自己愛病理に関する調査研究や、臨床面接法による研究、カウンセリングなどの面接場面における転移・逆転移を扱う実験的研究など、自分なりの独自性を見いだして研究に取り組んでいただきたいと思っている。

私は臨床心理士の養成にエネルギーを注いでおり、学部２年、大学院２年の四年間で臨床心理士として最低基準を満たす教育と臨床訓練を施したいと試行錯誤をしている。自分なりに最良のプログラムをめざしているつもりであるが、学生には要求水準が高すぎて苦労をかけているように思う。それでも挑戦したいと思う学生に参加して欲しいと思っている。